

優秀賞

最先端の技術を未来の和歌山に

和歌山県立向陽中学校 二年

毛利 美緒

大阪・関西万博は私に、未来の技術や文化に触れる機会をくれた。奇抜なアイデアを活かした最先端の技術、音楽や芸術、日々の暮らしなどの多様な文化、そして世界中の人々との交流。私にとっては、その全てが新鮮で、忘れられない思い出となった。

私は、開幕する前から万博を心待ちにしていた。初めて万博会場に足を踏み入れたとき、そのスケールの大きさに衝撃を受けた。大屋根リングは私が想像していたより何倍も大きくて、屋上からは一つの大きなリングに様々な国が集まっているように見え、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念が感じられた。また、どのパビリオンもそれぞれの国の思いが込められた美しい建築で、その国ならではの魅力を感じた。私は、シンガポールやカタール、フィリピンなど、色々なパビリオンに行ったが、その中でもカナダパビリオンが一番印象に残っている。

カナダパビリオンは氷のような外観のパビリオンで、荒々しい自然の力と、温かくオープンな心という対照的な要素が統合されたデザインになっている。館内に入ると、タブレットを手渡された。このタブレットを使用すると、拡張現実を駆使した没入型の体験ができると聞いたとき、私は期待に胸を膨らませた。先に進んでいくと、そこはそびえ立つ氷の塊に囲まれている。氷にタブレットをかざすと、実際に見えないものが本当にその場にあるかのように映し出された。毎年カナダでは、川面の氷が砕けて冬の終わりと春の訪れを告げ、川の水が解放されて流れ出し、大地の再生が始まるそうだ。拡張現実によって、カナダを象徴する場所、人々、そして春が訪れる「再生」の瞬

間をリアルタイムで体験することができた。

私は、カナダパビリオンの展示を実際に体験してみて、非常に優れた技術に驚嘆した。そこで私は、このような最先端技術を和歌山の観光地に取り入れることで、もっと観光事業が発達し、和歌山が今まで以上に活気のある県になると考えた。例えば、和歌山の観光地には、和歌山城、熊野古道、那智の滝などがあり、どのスポットも古い歴史を持つ。その長い歴史を、タブレットの最先端技術を使って体験できるようにすると良いと思う。その観光地の年代記や昔の街並み、人々の様子などをタブレットに映し出すことで、昔の雰囲気を味わいながら没入感のある観光を楽しむことができると思う。そして、コロナの影響が少なくなり外国人観光客数が増えている今、和歌山の長い歴史や魅力を世界中のたくさんの人々に知ってもらうきっかけにもなるだろう。

私が万博で体験した、奇抜なアイデアを活かしたカナダの最先端の技術は素晴らしいものだった。その技術こそが、これらの「未来社会のデザイン」に良い影響を与えていくと思う。私は、未来の和歌山が、そんな最先端の技術を取り入れた、もっと観光事業が盛んな県になることを期待している。